

## 開催にあたって

今回のコーナー展示では、平成25年に文書の整理が完了し、目録が刊行された事を機に、諸井三佐保家文書展を開催いたします。

諸井(三)家は中山道本庄宿に居を構えた旧家で、位置関係から「東諸井家」と呼ばれていました。東諸井家は、江戸時代に絹商人として財をなし、幕末には糸繭・蚕種商としても活躍しました。明治時代以降は、本庄郵便局を開設した諸井泉衛、縁戚関係にあった渋沢栄一に引き立てられ、日本煉瓦や秩父セメントの経営に尽力した恒平、初代経団連会長をつとめた貫一など、日本の近代を牽引した人物を多く輩出したことでも知られています。

諸井(三)家文書は約9,000点にのぼる文書群です。特筆すべきは、近代以降の郵便局関連資料、絹取引や富岡製糸場との関わりなどを示す蚕糸関係文書の豊富さです。さらに、諸井家の人々の多彩な活動や交流が窺える書簡類なども多く含まれています。

今回の展示では、郵便・交通関係の資料を中心に、諸井家の人々と、日本の近代化の歩みを紹介します。

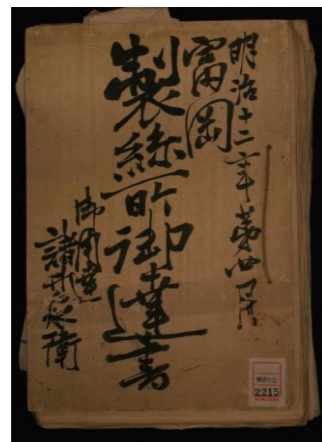
平成26年6月

埼玉県立文書館

## I 諸井家と蚕糸業

本庄は、中山道の江戸から数えて10番目の宿場として、また利根川舟運の集積地として繁栄した町です。東諸井家の歴代当主は江戸幕府から野廻鳥見役を拝命していた旧家ですが、江戸時代後期から絹・太織商として活躍し、本庄の大絹商として知られるようになります。幕末には糸繭・蚕種まで商いを広げ、横浜港の開港以来、最も重要な輸出品の一つとなった生糸・蚕種貿易の波に乗って、更に発展を遂げました。

明治時代以降も、東諸井家の生業の中心は糸繭商でした。明治政府の殖産興業政策のもと、官営模範工場として明治5年(1872)に富岡製糸場が開業しますが、東諸井家は富岡製糸場の原料の買い付けも請け負っており、関係書類や場長の尾高惇忠と取り交わした書簡などが多く残されています。また、児玉・賀美・那珂の三郡(現在の本庄・児玉地域)の製糸業組合の幹部として、品種改良や製品のブランド化にも積極的に取り組んでいました。



富岡製糸所御達書 明治12年(1879)

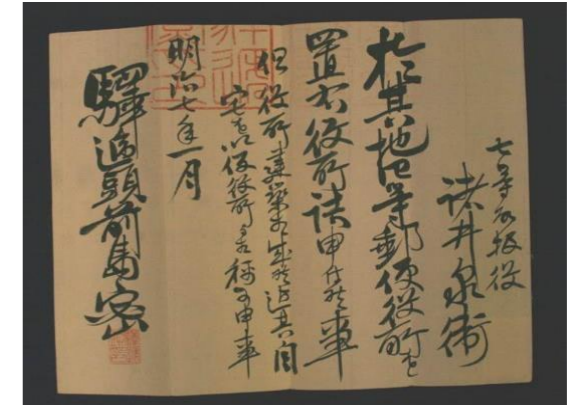


諸井泉衛とその家族 \* 諸井氏蔵

## II 諸井家と本庄郵便局

日本の近代郵便制度が創業したのは明治4年(1871)ですが、東諸井家十代目の泉衛は、駅通頭(郵政大臣)前島密の依頼により、明治5年(1872)に自宅に本庄郵便取扱所を開設しました。開設に至った経緯は不明ですが、泉衛は初代の本庄郵便局長に就任しました。局長職は、その後次男の恒平、その子の貫一へと受け継がれ、東諸井家は「郵便諸井」とも呼ばれて昭和30年代まで郵便局の管理運営に携わっていくことになります。現在、国の登録有形文化財となっている本庄仲町郵便局の建物は、二代目局長の恒平によって昭和9年(1934)に建築されたものです。

東諸井家の郵便関連資料は、当館と通信博物館(現郵政博物館)、埼玉県立歴史と民俗の博物館に分散して収蔵されていますが、当館の資料には、郵便局の開設指令書や、明治期の郵便局の事務内容を示す資料が多く含まれています。



郵便役所開設指令書  
明治7年(1874)

## III 諸井家の人々と近代日本

泉衛の次男恒平は、縁戚関係にあった渋沢栄一の引き立てもあり、日本煉瓦や秩父セメントほか多くの会社の経営に携わるようになります。三男の時三郎は日本発のビル・ブローカーとなったほか書家としても知られ、四男の四郎は東亜製粉の社長を務めたほか、多くの鉄道経営に関与しました。また、外交官となった六郎は条約改正交渉の陰の立役者として活躍しました。

恒平の次の世代以降でも、秩父セメントの社長や初代経団連会長となった長男貫一をはじめ、経済界などで指導的役割を果たした人物が多く出ています。

当館収蔵の文書群には直接会社経営に関わるような文書はほとんど含まれていませんが、渋沢栄一・尾高惇忠・原善三郎といった近代日本を代表する財界人達と取り交わした書簡などから、東諸井家の人々の活動と豊富な人脈の一端が窺えます。

## IV 諸井家と文化

東諸井家の文書群には四書五経などの漢籍類をはじめ、歴史書や書画なども見ることができます。裕福な商家の多かった本庄は、文人の往来もあって地方文化が花開き、俳諧なども盛んでした。このような文化的環境によるものか、東諸井家からは経済人だけでなく、書家春畦の号をもつ時三郎ほか、音楽家となった諸井三郎(恒平の三男)・誠の親子など、著名な文化人も輩出しています。

### コラム 諸井家と交通

\*展示期間:7/10~10/5

日本の近代化を推し進めたものの一つが交通網、とりわけ鉄道網の整備でした。実業界の重鎮となった諸井恒平は、上武鉄道(後の秩父鉄道)、西武鉄道などの取締役役に就任し、秩父鉄道の社長も務めました。その弟で四男の四郎も西武鉄道や秩父鉄道の取締役を歴任しています。

このコーナーでは、鉄道関係資料を中心に当時の交通の様子を紹介します。

